

<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童解消加速化プラン（平成 25 年）</li> <li>・子育て安心プラン（平成 29 年）</li> <li>・保育所保育指針、幼稚園教育要領の改定（平成 30 年 4 月施行）</li> <li>・幼児教育・保育の無償化（令和元年 10 月予定）</li> <li>・子育て世代包括支援センターを平成 32 年度に全国展開（「ニッポン一億総活躍プラン」（平成 28 年））</li> <li>・産前・産後サポート事業ガイドライン、産後ケア事業ガイドライン（平成 29 年）</li> <li>・自殺総合対策大綱（平成 29 年）</li> <li>・子育ての不安や負担を一人で抱えている親の増加（厚生労働白書）</li> <li>・子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成 26 年）</li> <li>・児童に関する条約（子どもの権利条約）（平成 6 年）</li> <li>・児童福祉法及び児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律（平成 19 年）</li> <li>・いじめ防止対策推進法（平成 25 年）</li> <li>・児童福祉法等の一部を改正する法律（平成 29 年）</li> <li>・育児・介護休業法が改正（平成 29 年）</li> <li>・働き方改革実行計画（平成 29 年）</li>   <li>・女性の育児休業取得率は 81.8%（平成 28 年度）と利用が進んでいる（厚生労働白書）</li> <li>・第 1 子出産後の女性の継続就業割合をみると、53.1%（平成 27 年度）（厚生労働白書）</li> <li>・男性の育児休業取得率は 3.16%（2016 年度）（厚生労働白書）</li> <li>・男性の子育てや家事に費やす時間は先進国中最低の水準である。（厚生労働白書）</li> </ul>
<p>2 市の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童解消に向け、認可保育所の整備、私立幼稚園の新制度園への移行支援、小規模保育事業の整備等を行ってきた。</li> <li>・子どもたちの放課後の居場所として、児童館、学童クラブ、ひのうちの3つで連携しながら努めた。平成 30 年 4 月 1 日現在登録児童数は 1,931 人となり、対象児童人口の約 42%が登録されている。</li> <li>・病児・病後児保育について、市内 3 箇所で開催している。</li> <li>・一時保育事業について、平成 30 年度に、地域子ども家庭支援センター多摩平での新たな枠組みで実施してきた。</li> <li>・民間保育園について、保育の質の向上のため、福祉サービス第三者評価の定期的な受審がある。</li> <li>・民間保育園と公立保育園の交流事業を通じて、①研修、②子ども・職員の相互交流、③地域のネットワークづくりの3つの事業を実施している。</li> <li>・市内 21 か所に子育てひろばを設置し、親子の居場所と気軽な相談先として充実を図ってきた。</li> <li>・駅前ミニ子育て応援施設「モグモグ」は、市民ワーキンググループの提案により開設した事業として実施している。学童クラブ終了後の夜間の児童育成としても展開されている。</li> <li>・各種相談事業を実施し、0 歳から 18 歳まで、切れ目のない相談支援体制を確立している。</li> <li>・子ども家庭支援センターにて、子どもと家庭に関する相談として、児童虐待、障害、育成等様々な相談を受けている。</li> <li>・妊婦訪問指導、妊婦健康診査、乳児家庭全戸訪問等を通じて、妊婦早期介入を行うとともに、母体や胎児の健康の確保に努めている。</li> <li>・増加の一途である要保護・要支援児童及びその家庭の支援を進めるため、日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会を通じて、関係機関の連携を図っている。</li> <li>・ひとり親家庭への相談機能・情報提供の充実と、自立に向け、母子生活支援施設入所支援や給付金による経済的な支援を行っている。</li> <li>・不登校の子どもを対象に、学ぶ意欲と基礎・基本の定着を図り、学校復帰を目指している。</li> </ul>

3 アンケート  
調査結果

**○子育て環境や子育て支援の現状について[未就学児童保護者・小学生保護者]**

**[未就学児童保護者]**

- ・相談相手が「いる」の割合が、前回調査と比べると減少
- ・日常生活において2割の方が孤立感を感じている
- ・地域でつきあえる知人や友人などで、「気軽におしゃべりができる人」が、前回調査と比べると減少  
また、孤立感を感じる方は、「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」を求めている

**[小学生保護者]**

- ・子育てに関して日常悩んでいることは、「子どもの教育に関すること」、「子どもを叱りすぎている気がする」が高い
- ・相談相手が「いる」の割合が9割だが、「いない」の割合が1割
- ・地域の人から見守られている方、日常生活での孤立感を感じない方は、未就学児童保護者よりも高い  
また、孤立感を感じる方は、「本音で子育てについて話ができる人」を求めている

**○保護者の就労状況について[未就学児童保護者・小学生保護者]**

**[未就学児童保護者]**

- ・母親の就労状況は、「フルタイム」が、前回調査と比べると増加
- ・母親の育児休業制度の取得率は、前回調査と比べると増加

**[小学生保護者]**

- ・母親の就労状況は、「フルタイム」、「パートタイム」がともに、前回調査と比べると増加

**○教育・保育事業の利用状況について[未就学児童保護者]**

- ・幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業を「利用している」が、前回調査と比べると増加  
また、その事業の内訳で、特に「認可保育所」が、前回調査と比べると増加
- ・現在利用している、していないに関わらず定期的に利用したい事業は「認可保育所」が最も高く、前回調査と比べても増加
- ・0～2歳児における子育てに対する考えで、「育児休業制度が整っていれば、在宅で子育てしたい」が最も高い

**○地域子ども子育て支援事業について[未就学児童保護者]**

- ・お父さんが病気やけがで教育・保育の事業が利用できなかったことは9割を超えて高いものの、母親、もしくは父親が休んで対応している。
- ・私用、リフレッシュの目的で、一時預かり等の事業を利用したい方は8割
- ・この1年間に、保護者の用事により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことがあった方は1割程度  
また、預け先の困難度は「困難」が5割、「困難ではない」が5割
- ・地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）を利用している方が3割弱  
また、「今は利用していないが、今後利用したい」方は2割

**○小学校の放課後の過ごし方について[小学生保護者]**

- ・小学校低学年（1～3年生）における、放課後の時間の過ごし方の希望は、放課後子ども教室「ひのっち」が3割を超え、学童クラブが2割を超えている
- ・小学校高学年（4～6年生）における、放課後の時間の過ごし方の希望は、放課後子ども教室「ひのっち」が3割を超え、児童館が2割を超え、学童クラブが1割を切っている

**○結婚や出産について【18歳から30歳代】**

- ・女性が結婚や出産後も仕事を続けていく上で必要な条件は、「子育て期に多様・柔軟な働き方が選択できるよう制度等を見直す」が最も高い
- ・働いている間、子どもの世話をどうしたいかについて、「保育所や託児所に預ける」が最も高く、前回調査と比べても高い
- ・最近の子育て中の家庭について、「親自身の日常生活にゆとりがない」が最も高い

**○子育ての実態・必要な対策について【企業】**

- ・仕事と子育ての両立に可能な環境を整備・充実していく上で重要なことは、「病後児保育、延長保育、駅前保育所の設置等の充実」が最も高いが、前回調査と比べると減少
- ・今後取り組みたいと思っていることは、「有給休暇の取得」が最も高い

#### 4 主な課題

##### 《保育所や学童クラブ等の整備等》

- 子どもの人口が減少することが予測される中、母親の就業率の増加や保護者の就労形態の変化を踏まえて利用者のニーズに対応し、施設整備の必要性を見極めていくこと。
- 学童クラブについては、必要とする児童全員の受け入れと育成環境の充実ができるよう民間活力を積極的に取り入れて、計画的な整備を行うこと。
- 保育士及び支援員等の担い手の確保をしていくこと。
- 保育士及び支援員等の資質向上に努め、質の高い保育を進めること。
- 児童館機能の充実と職員の専門職化を目指すこと。

##### 《相談等》

- 保護者の孤立を防ぎ、子育ての悩みや保護者自身の悩みを抱え込むことがないように、身近で気軽に相談できる仕組みや体制を構築し、妊娠、出産、産後、子育て期における切れ目ない支援を行うこと。
- 相談相手がない方や子どもの預け先がない方への対策（周知やアウトリーチなど）を行い、既存事業へつなげること。
- 複雑化かつ深刻化した相談内容に対応するため、専門相談できる体制の整備や専門機関同士の連携を行うこと。

##### 《生活に困難を抱える家庭への支援》

- 支援が必要な家庭に、適切なサービスや支援を結び付けるとともに、地域の支援者と連携しながら、生活に困難を抱える家庭への支援を行うこと。
- ひとり親家庭の生活の安定と自立を支援するため、日常生活を支援し、相談体制を充実すること。

##### 《虐待防止対策》

- 児童虐待防止の広報・啓発の充実に努めるとともに、要保護児童対策地域協議会の機能強化を図り、子どもの虐待（疑いを含む）を発見した際に、速やかに通告し連携、支援できる体制を強化すること。
- 関係機関とともに、虐待防止対策に対する知識を深めること。

##### 《ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり》

- 母親の育児休業の取得は進んでいるものの、希望する保育所に入るために、仕事へ早期復帰している現状があるため、利用者のニーズに対応して多様な子育て支援サービスの展開や保育所や学童クラブなど整備の必要性を見極めていくこと。
- 女性の育児休業取得率は、制度の着実な定着が図られているものの、男性の取得率が依然低いことから、社会全体で育児休暇制度を利用しやすい気運の醸成を図ること。

## 「基本目標Ⅱ 一人ひとりが輝く主体的でたくましいひのっ子育て」についての課題

<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・若者育成支援推進法（平成 21 年）</li> <li>・子供・若者育成支援推進大綱（平成 28 年）</li> </ul>
<p>2 市の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレーパーク事業として、NPO 法人が仲田の森蚕糸公園で「なかだの森であそぼう」を開催している。</li> <li>・臨床心理士、言語聴覚士等による市立保育園、民間保育園、認証保育所への定期的な巡回により発達に関する相談を保育者に対し行っている。</li> <li>・日野市食育推進計画に基づき、食事の大切さを指導していくため、講演や講座、インターネット等のメディアを用いた家庭への発信等を実施している。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<p><b>○あなたのことについて[小学生・中学生]</b></p> <p>[小学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふだん悩み事を「だれにも相談しない」が2割弱</li> </ul> <p>[中学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことが好きである割合は、「あてはまる」が6割</li> <li>・人前で自分の意見をきちんと言える割合は、「あてはまる」が7割 また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加</li> <li>・自分に自信がなくなる時がある割合は、「あてはまる」が7割 また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加</li> <li>・今の生活について、満足している方は、前回調査と比べると減少</li> </ul> <p><b>○学校や友人について[中学生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちをわかってくれる友達がいるについては、「まあまあいる」が増加している一方で、「たくさんいる」が減少</li> <li>・自分を友達に理解してもらおうと努力しているについては、「少ししている」が前回調査と比べると増加している一方で、「している」が減少</li> <li>・誰とでも仲良くなれるについては、「だいたいあてはまる」が前回調査と比べると増加している一方で、「とてもあてはまる」が減少</li> <li>・自分はクラスにとけ込んでいるは、「まあまあとけ込んでいる」が前回調査と比べると増加している一方で、「とてもとけ込んでいる」が減少</li> </ul> <p><b>○社会環境について[中学生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人とあいさつをするかについて、「自分からあいさつをする」が前回調査と比べると減少</li> <li>・放課後、休日、夏休みのボランティアの経験は、「ある」が前回調査と比べると減少</li> </ul> <p><b>○あなたのことについて [高校生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段のことについて、早寝早起き以外、朝食をとる、あいさつ・礼をする、物を大切にするなど、多くの面で「できている」と回答している割合が高く、前回調査と比べても増加</li> <li>・自分のことであてはまることについて、自分のことが好き、人前で自分の意見をきちんと言えるなど、「とてもあてはまる」と回答している割合が前回調査と比べても増加</li> </ul> <p><b>○学校や友人について [高校生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は毎日楽しいかについて、おおむね「楽しい」と回答しているものの、「とても楽しい」は前回調査と比べると減少</li> <li>・学校・クラス・友達との距離について、今のクラスが好きだ、学校に行くことが楽しみだ、今の学校は好きだについては、「とても好き・楽しみ」が前回調査と比べると増加</li> </ul> <p><b>○あなたの将来について [高校生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業イメージをぼんやりでも思い描くことができるかで、「できる」が7割弱であるものの、前回調査と比べると減少</li> <li>・結婚について、「どちらでもいいと思う」「無理にする必要はない」が、前回調査と比べると増加</li> </ul> <p><b>○社会環境について [高校生]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人とあいさつをするかについて、「自分からあいさつをする」が前回調査と比べると減少</li> <li>・放課後、休日、夏休みのボランティアの経験は、「ある」が前回調査と比べると増加</li> </ul>

<p>4 主な課題</p>	<p>《心を豊かにする学習・体験》  ○体験的な学習活動を通じて子どもの創造性と自主性を育む教育を充実させていくこと。</p> <p>《障がい児への支援》  ○配慮を必要とする子どもの個々の状況に応じたサポート体制を充実すること。</p> <p>《子ども、家庭、学校への支援》  ○関連機関が連携し、一貫した支援体制を整備すること。  ○発達に支援が必要な子どもを早期発見・早期支援を行うために連携を強化し、相談体制の充実を図ること。  ○発達に支援が必要な子どもの地域の居場所において、地域支援体制の充実を図ること。  ○いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応できる対策を総合的に進めていくこと。  ○学校の集団生活や学習に困難を抱える子どもの増加に伴い、指導方法の助言など学校支援のニーズに対応していくこと。</p>
---------------	---

「基本目標Ⅲ 共に生き、互いに育てあうまち」についての課題

<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<p>—</p>
<p>2 市の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 妊産婦から中高生まで、段階に応じた子育てサービスが、地域性を踏まえて地域内で円滑に展開されていく地域づくりとして市民活動（NPO など）を支援している。</li> <li>• 中学校地区（8地区）ごとに地区青少年育成会が組織され、家庭、学校、地域の諸団体との連絡調整や地域の中で行事やイベントなどを開催することで子どもたちに様々な体験・経験の機会を提供している。</li> <li>• 地域の人々が学校運営を支援する「学校支援地域本部」の設置を支援し、地域全体で子どもたちを育む環境を整備している。</li> <li>• 「ひの21世紀みらい塾」として、特技を活かして教えたいという市民講師や、市職員を派遣・紹介し、市民の学び合いを支援している。</li> <li>• 通学路など登下校の安全確保として、平成29年度設置により12校60台の防犯カメラ設置が完了した。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<p><u>○子育ての実態について【子育て関連事業者・団体】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもやその親たちもつ悩みについて、「発育・発達に関すること」が最も高い</li> <li>• 児童虐待の問題について、「親の育成歴による世代間連鎖」「親が未熟で自分の感情を抑えられない」が最も高い</li> </ul> <p>また、児童虐待の防止には、「日常的な育児相談機能の強化」「母親の育児不安への早期対策、カウンセリング、治療の実施」が求められている</p> <p><u>○子育て支援活動について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者の方が地域に求めていることは、「子どもが自由にのびのびと遊べる場所がほしい」が最も高い</li> </ul> <p><u>○日野市の子育て支援策について【未就学児童保護者・小学生保護者】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後力をいれていくべきことは、「公園などの遊び場の整備」が最も高く、前回調査と比べても増加</li> <li>• 子育て支援事業の情報の入手先は、「市のホームページや広報誌、子育て支援情報サイトほけつとなび、パンフレット等」と、「友人、知人、隣近所」が高い</li> <li>• 子どもを育てる環境として重視していることは、「安全に生活できるまち」が最も高い</li> </ul>
<p>4 主な課題</p>	<p>《地域の担い手》</p> <p>○地域における支え合いの基盤が弱まる中、新たな担い手を発掘していくこと。</p> <p>《環境整備》</p> <p>○乳幼児を連れて子育て中の方が気軽に外出できる環境を整備すること。</p> <p>《安心・安全》</p> <p>○警察・生活安全関係機関との連携強化を図り、安全への注意喚起の継続をすること。</p> <p>○子どもが事件や事故に巻き込まれないよう、子どもが利用する空間を、地域ぐるみで見守る意識を高めること。</p>

「基本目標Ⅳ 命を慈しむ心を育て、次の世代の親を育てる」についての課題

<p>1 国の方針及び社会動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットの情報に振り回される親たちもあり、混乱や誤解、あるいは基本的な知識や情報の欠落のために、子育てのつまづきのリスクも高くなっている。（子育て世代包括支援センター業務ガイドライン）</li> <li>子どもが巻き込まれる交通事故や、子どもが被害を受ける痛まし事件が多発</li> </ul>
<p>2 市の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校 25 校 PTA への委託により、地域性やニーズに合わせた学習活動が実施された（延べ参加者数 3,643 人）。</li> <li>子どもへの理解を深め、命の尊さ、慈しむ心、家族の大切さや家族をもつ喜びが持てるよう、地域の高等学校・中学校と連携して中高生等の保育体験を受け入れている。</li> <li>平成 30 年 7 月 1 日（日）に日野市子ども条例 10 周年記念事業を市と育成会連合会が共催で実施。約 250 名が来場し、これまでの 10 年間のふり返りやこれからの展望を考える対談を行った。</li> </ul>
<p>3 アンケート調査結果</p>	<p><u>〇あなたのことについて</u>[小学生・中学生]</p> <p>[小学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふだん悩み事を「だれにも相談しない」が 2 割弱</li> </ul> <p>[中学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことが好きである割合は、「あてはまる」が 6 割</li> <li>人前で自分の意見をきちんと言える割合は、「あてはまる」が 7 割 また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加</li> <li>自分に自信がなくなる時がある割合は、「あてはまる」が 7 割 また、「とてもあてはまる」が、前回調査と比べると増加</li> <li>今の生活について、満足している方は、前回調査と比べると減少</li> </ul>
<p>4 主な課題</p>	<p>《家族のふれあい》 〇子どもの成長にとって家庭の役割がいかに重要であるかの再認識を促すこと。</p> <p>《子どもの人権意識》 〇子ども一人の人間として最大限に尊重され、自分の意見を表明できるように支援すること。</p>